

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ菊川保育園
施設所在地	墨田区立川4-13-29

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

数字・図形

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園の特色は4・5歳児が同じフロアで過ごし、朝夕の時間、給食、戸外活動等計画により一緒に過ごす時間が多い。

園生活の中で、就学に向けて文字や計算等を特別教えたりはしていないが、日常の保育の中で興味をもって、探究していく事を大切にしている。

また、日々の遊びの中で家庭の廃材をもってきてもらい、その中から素材を自分で選んで考えた物を作ることを楽しんでいる。

更に探究を深められるよう、様々な形に親しみ、思考錯誤しながら表見する楽しさを味わえるようにテーマとして取り上げた。

## 2. 活動スケジュール

4月18日(金)	9月11日(木)	2月9日(月)
5月14日(木)	10月23日(木)	3月23日(月)
6月6日(金)	11月14日(金)	
7月9日(水)	12月18日(木)	
8月4日(月)	1月23日(金)	

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・エバムスティック・ペッタンドロップ・自由に曲がるブロックアイリング
- ・ラQ・レゴ・マグネットブロック・パズル・トランプ・画用紙・絵具

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ◎こいのぼり製作を通して、模様 of 形について考える。
- ◎自分のイメージを膨らませながらのびのびと表現することを楽しむ。
- ◎友だちとイメージを共有しながら一緒に表現することを楽しむ。
- ◎活動を楽しみながら、工夫していきことを楽しむ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・こいのぼり製作ではたくさんの色の画用紙の中から好きな色を2枚選び、ハサミでこいのぼりの形を切っていくことを丁寧に行っていた。その後、小さく切った花紙を一枚一枚ねじりながらこいのぼりに貼り、一人ひとりがねじり方や貼る向き、色合いなどを工夫して集中して楽しんでいた。完成したのを見て「いろいろなこいのぼりがあって面白いね!」と嬉しそうに話していた。

・カプラとドミノの遊び方を伝えると興味を持ち、最初は上手く組み立てられなかったり、上手く並べられなかったりしたが、繰り返し行うことで少しずつコツを掴み、「見て!上手になってきた!」と嬉しそうに知らせていた。その中で、友だちが行っているものにぶつからないように配慮したり、「長く並べられてすごいね!」と褒めあったりと思いやりのある優しい姿がたくさん見られた。

・七夕の話をし、様々な青系の折り紙を使用して輪つなぎをたくさん作って天の川を表現した。コツをつかむまでは保育者に確認したり手伝って欲しいことを伝えていたが、少しずつ慣れてくると黙々と集中して行っていた。少しずつ長くなり、自分の身長と同じくらいになると友だちと見せあい喜んでいた。

・トイレットペーパーの芯に切れ込みを入れ、花のように切れ込み部分を開いたものを使用して花火を表現した。トイレットペーパーの芯に好きな色の絵の具をつけてスタンプを押すように回していくと、少しずつ花火のようなものが出来上がっていき、「花火みたいになってきた!」「こうなるの面白い!」「色を混ぜていくときれいだね!」などと話しながら集中して取り組んでいた。模造紙いっぱいには花火が表現できると、「ついに完成だね!」「早く階段に飾ろうね!」「今度の花火大会(隅田川花火大会)も楽しみだなー!」などと笑顔いっぱいに話していた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

友だちと協力したりアイデアを出しながら遊びを楽しむ中で、どのように工夫したら上手くいくか等子どもたち同士で話し合うことを大切にしてきた。その中で、思いを押し通すのではなく、相手の思いや考えを受け入れる姿勢がお互いに育まれている様子が見られた。

図形を使った遊びを繰り返す中で、遊び方が豊かになり、発想も膨らみ、組み合わせた遊びを発展させたて楽しんだり工夫する姿が見られている。保育者がすぐにヒントや答えを教えるのではなく自分たちで考えることが、それぞれの自信に繋がるのだと改めて感じた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ菊川保育園
施設所在地	墨田区立川4-13-29

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感を使った遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園の特色は、2・3歳児が同じフロアで過ごし、朝夕方の時間、日中の活動計画により、一緒に過ごすことが多い。五感を通じた体験は、集中力や探究心、自己表現などの育ちにつながると考えた。素材の違いや変化に気付く経験を重ねることで、自分なりに考えたり試したりする力を育んだり、発達段階に応じ、五感を通じた直接体験を充実させるため設定した。

## 2. 活動スケジュール

6月…10日間

7月…10日間

8月…5日間

9月…8日間

10月…8日間

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

平均台・つなげて広がるワクワク道路・車・絵本・絵具・画用紙・粘土・実験セット・ウオーターテーブル・たらい・小麦粉・片栗粉・寒天

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

小麦粉粘土遊び・小麦粉粘土の感触を楽しむ。  
寒天遊び・寒天の感触を楽しむ。  
春雨、ダイラタンシー感触遊び  
色水遊び・色々な色の色水を混ぜて楽しむ。  
入浴剤 色水遊び  
クレイスライム作り・もちもちした感触を楽しむ

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・春雨に食紅で赤、青、黄色、緑と色をつけたもの、色をつけなかった5種類を用意し1色ずつ好きな色の春雨をお皿に入れ感触を楽しむ。3歳児は特に言葉でもコミュニケーション能力が高く「少し分けてくれる?」「ちょうだい」と色を交換し合い様々な色となっている姿に刺激を受け2歳児も「ちょうだい」「どうぞ」と交換し合い気付けばカラフルな春雨が手元にあった。

大きなタライの中には水を入れグルグルと回し感触を味わいながら「つるつる」「つめたい」などの言葉で感覚を表現し、繰り返し触れて楽しんでた。

春雨の混ざり合う色、形など沢山の刺激があったように感じる。

手が濡れてしまっても「汚れても大丈夫だからね」「タオルがあるよ」と伝えると安心して遊びを楽しんでいた。

ダイラタンシーは興味のある子のみ遊んだが片栗粉の不思議な感触に「さらさら」「ドロドロ」と言葉がでてきてグルグルとかき混ぜたり握ったり硬さの違いに不思議そうにでも気持ちよさそうに何度も触る姿があった。

・樹脂粘土と重曹水でスライム作りを楽しむ。水を計量し、よく溶かして重曹水を加えると簡単に作ることができた。1回目は白、2回目は赤の食紅で着色するときれいな桃色になった。違う色を混色して感触あそびを楽しむことができた。保育者が伸ばして見せると「わー、触ってみたい」と興味を示し触り始めた。感触あそびが苦手な子も最初は他児の様子を見ていて声をかけたが触るのを嫌がっていた。二度目の桃色のスライムには他児が「もっと頂戴」と言いながら欲しがっていたのを見て、興味をもち触ることができていた。今回は色のみだったが、心地よい香りがあるとさらに楽しめたのではないかと思った。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・触る前に躊躇する子も、友だちの様子を見ることで安心して参加できた。2歳児は「繰り返し」の中で安心感を得て、またやってみたいという思いに繋がっているように感じた。3歳児は「どうなるのかな？」と試す姿が増え、探究心が芽生えていくことで、またやりたい、今度はどうなるの？と期待感が持てるようになってきた。

感触遊びは、表現できる活動である。今後も様々な取り組みを行っていきたい。